

機	材	report
レ	ポ	ー
ト		

レポート：(株)MOA商事 川崎秀和
大島プロ 大島正史
(有)毎企画 井上尋夫



ミニDLOB LED カメラマウントライト
型番：DLOBML+BS-S

映像機材グループディスカッションレポート

新企画のグループディスカッションレポートです。最新の映像機材を触りながら、グループで操作感などをレポートするというものです。

今回は、株式会社ケンコープロフェッショナルイメージング様からお借りした、「dedolightのミニDLOB LED」を3人でレポートします。



井上：そもそもこれはカメラ装着式のムービングライトですよ。小さいですね。それと持った感じは高級感ありますね。よくある四角いLEDの作りとは違い丁寧に作られている感じがします。

川崎：何せ、コンパクト！「ちょっとロケ行ってインタビューしてくるねっ！」という時は最強ですね。

バッテリーもハンディカメラ用が

使えるし、LEDなので比較的長持ち。

熱も出ないし、フィルター系も、ディフューザーやアンバーがバンドアの形で最初からついているのは便利。また、光量を調整出来るディマーノブもあって、100～5%まで調光可能。さらに、オプションがいろいろと用意されていて、アームやソフトボックスをはじめ電池用の電源バックがあるのもいざという時、頼りになりそうですね。

井上：そうそう、バンドアついていて羽切り出来るのも良いし、このサイズで照射角度を調整出来るのもいいですね！

川崎：そうですね。ただ、照射角は狭いので、調整ノブを目一杯広げても、カメラのレンズがワイド寄りだと丸く影が出てしまいます（フォーカシング幅4度～56度）。どうしても四角いLEDと比べてしまいますね。あくまで、2～3人までのヨリのSHOTで使用すべし！ですかね。

大島：一般的にカメラの上に付けるのでやはり小さいということが一番ではないでしょうか。もちろん明るさについては、明るいにこしたことはないですが、重くなるとは、

使い勝手が限られてくると思います。ハンディカメラのバッテリーのSタイプで90分ぐらい使えるのも魅力ですね。小さいわりには、色々調整が可能なので、後はカメラマンの工夫次第で色んな局面で使えそうなライトだと思います。夜間の撮影で使ってみました。単独インタビューみたいなレポートでは問題なく使えますが、バッテリーが外れやすいのが難点。

スチールカメラに取り付けて夜間イベントの撮影をしましたが、ストロボ撮影のような赤目になることはありませんし、光のページェントの撮影での補助光としても有効に使えました。

川崎：カメラヘッドにつけて、比較的に近い距離から直接被写体に当たると付属のデューザーだけでは、かなりまぶしくてトレベ的なものが必要かも。

また、スタンドを持って行ければ、バウンドさせたりや脇からあてるやり方もチョイス出来るかも！ですね。ライティングキットみたいに2～3灯あれば、なお使い勝手が広がるのではないかと思います。

井上：今回のディスカッションは、個別にも現場に持ち帰り使用して頂いた感想をあらためて持ち寄り、ディスカッションさせて頂きました。コンパクト高機能になって来たハンディカメラに合わせて、ますますライトや周辺機器もコンパクト高性能なものが増えてくるように思えます。

このグループディスカッションレポートでは、私たちの身近な映像機材を触りながら、率直なレポートをお届け出来たらと思います。今後ともご期待ください。

